

梵浄山地区におけるオシドリの繁殖生態

楊炯盛 · 鄒迅 · 林乾正

貴州省博物館 · 貴州省防疫所 · 貴陽紅星トラクター

訳 福井和二

オシドリ (*Aix galericulata*) は希少鳥類で、これまで貴州省では冬鳥として一般に認められていた。最近、貴州省内の動物学関係者の観察により貴州省の遵義、銅仁、貴陽、貴定などの一部地域に夏も留まり、繁殖しているという報告があった(呉至康等, 1983)。しかし、繁殖生態に関しては系統的な報告はまだ見られない。よって、我々は1983年4~5月に、梵浄山東南麓のオシドリについて繁殖生態の基礎的な観察を行ったので報告する。

1. 生息環境

我々が観察した範囲は、梵浄山東南麓の馬槽河、黒湾河、盤溪河と大河一帯で、標高500~600m、面積約50km²の地域である。この一帯は、溪流が多く、樹林が茂り、その間に田圃も耕作されている静穏な環境である。標高2000mの梵浄山は東南季節風とシベリアの寒風を遮るため、冬は温かく、夏涼しい気候に恵まれ、年平均気温は5.0~17.0°Cの間で、植被は常緑広葉樹の二次林である。山麓の村落周囲、溪流の両岸にはスギ、馬尾松 (*Pinus massoniana*)¹、湖北楓楊 (*Pterocarya hupehensis*)²、絲栗栲 (*Castanopsis platyacantha*)³、等の高木と山礫 (*Symplocos caudata*)⁴、マルバサツキ、ツバキ等の灌木およびススキ、カヤ等の草本植物などである。

2. 繁殖前の行動

秋冬季、オシドリは馬槽河、黒湾河と盤溪河の三筋の河の中流部に群れをつくって行動しているが、3月下旬から4月上旬ころまでに全てが村落と林道の近くにある大河に移った。我々はその流の6 kmほどの間の4群のオシドリを観察し、その数は14羽、12羽、8羽、7羽であった。警戒心が強く、ヤナギやヨシの茂みに隠れて採食している。午前6~10時、午後4~7時の2回活動が頻繁となる。この時彼らは岸辺の浅瀬で採食をしたり、水浴びをしたり、毛づくろいをする。日中のその他の時間は岸辺の石の上や、静かな水面で休息をとる。午後7時を過ぎるころ近くの岸壁の岩棚でねぐらをとる。この時期少数のオシドリはつがいを作っている。4月8日午前10時20分、我々は大河から約3 km離れた水田中で1対のオシドリの交尾行動を観察した。始まったとき、雌雄は水中で採食しており、雌が前、雄が後、その距離約3~4 m。雄は雌に近づき背中に跳上って、嘴で雌の後頭部をくわえた。雌は半ば水中に沈む形となったまま、交尾が行われた。交尾は2回行われた。毎回2~3秒で完了した。この直後に雌を捕獲し、解剖により胃内容物を調べたところイネ科植物の種実、小エビ、水生昆虫が見られ、卵が輸卵管へ達し、すでに卵白の形成が見られ、薄い卵膜に被われていた。

3. 営巣と産卵

4月中旬以後、大河において行動していたオシドリの群は全て分散し、大河周辺の村落近くで繁殖に入った。これらの村落は山を背にした水辺にあり、年を経た樹木に取り囲まれている。我々が観察した6巣は、すべて大木の樹洞にあり、樹の周辺は密集した灌木で被われていた。営巣場所から村落までの距離は150~500mで、溪谷と水田との距離は20~200mあった。これらの内4巣は絲栗栲の樹洞に、1巣はクリの樹洞に、他の1巣は楓楊の樹洞に営巣されていた。6巣の地面よりの高さは7.8(4.0~20.0)m、樹洞の口径10.7(6.0~24.0)cm、樹洞の深さ88.2(50.0

～100.0)cmであった。巣内にはまったく巣材のないもの、僅かな木屑が敷かれているもの、また、少量の枯れ葉、親鳥の羽毛が敷かれているものなどが見られた。繁殖期間中にオシドリが巣材を運ぶ行動を見ることはなかった。

雌は3月下旬から産卵が始まり、4月下旬～5月中旬が産卵の最盛期、5月下旬には産卵されなくなる。4月16日夜明けに樹洞から飛び出した雌を発見、樹洞内には卵が見られなかった。4月27日6卵を確認、抱卵中。5月1日発見した1巣には2卵が、また5月4日と5月7日にそれぞれ発見した別の巣には1卵ずつあり、さらに別の1巣に8卵があったが、すでに人により破壊されていた。

卵は卵円形で、新しい卵は白色、表面に光沢があり、斑点はない。抱卵後期には淡黄色になり、卵によっては表面に褐色の水に濡れた跡のような斑点がある。10卵による計測値は、大きさ56.2(52.5～59.5)×40.6(40.2～41.3)mm、重量47.7(47.5～48.0)gであった。

雌の産卵時間は多くは夜間である。初期の産卵間隔は1日あるいは2日に1卵で、中期以後は毎日1卵ずつ産む。産卵期間は雌は夜明けに巣を出て、雄と共に1～2 km離れた水田で採食し、日暮れ時に巣へ帰る。まず巣の付近数十メートルの範囲の樹木に止まり、その後巣に入る。もしこの時人の脅威を感じたら巣を放棄する。我々は5月1日発見した巣の2卵を計測を行ったが、親鳥は再びこの巣へ戻らず、300mほど離れた大きなクヌギの樹洞に巣を造り、5月4日産卵した。雌は産卵初期には、雄雌共に巣の中で寝るが、後期になると雄は近くの樹上で寝ている。

4. 抱卵

オシドリの雌は第1卵産卵後は巣の中で夜を過ごす。一定量の産卵を終わると終日巣に入り抱卵を始める。我々は抱卵を始めた2巣(6卵と8卵)を観察した。

抱卵は雌のみが行う。4月下旬1巣について5日間連続観察した。毎日夜明けに1回、採食に出かけ、その時間は40～80分間であった。この期間は雄は付近の水田で行動していた。

4月27日から抱卵後期の6卵の巣を継続観察し、5月1日全ての卵が孵化した。卵の鈍端部、気室のある部分から卵殻を破り、孵化がはじまった。雛の眼は淡褐色、嘴は緑を除いて褐色、緑の部分は橙色で、全身絨毛で被われている。上体は額から尾および翼まで黒色、眼の周囲は灰色、しかし、腮、喉、および前胸部は黄色が強い。脚は黒みがかかった緑色。2羽について計測した体重は12、13g、体長は84.5、88.0mm、嘴峰7.5mm、翼長16.5、17.5mm、跗蹠14.5、16.5mmであった。

5. 育雛

オシドリの雛は早成型で、孵化2日後には親鳥が雛を連れて樹林の中の小川で活動している。4～5日齢の雛も巧みに潜水する。潜水するときは、頭を下に水中に入れ、足の先がわずかに水面に見えるようにして、約1.5mは潜水する。もし、害敵に出会うと、親鳥の“cha cha”と急を告げる鳴き声で分散して草の中へ避難する。この時、親鳥は擬傷して害敵を誘い、雛より50mほど離れたところで飛び去っていく。害敵がいなくなると再び雛のもとに戻り穏やかな鳴き声で雛を呼び寄せ、雛を従えて小川の安全な場所へ泳いでいく。1週齢以内の雛は寒さに弱く、水中の行動で30分程するとかすれたような声で“xia, xia, xia”と鳴き、親鳥の翼の中へ入り暖をとる。観察によると雄はまったく育雛に関与しない。

我々は5月8日に8日齢の雛4羽を捕獲して計測したところ、体重20.9(20.0～22.5)g、体長110.2(110～111)mm、嘴峰13.4(13～14)mm、尾長20.5(20～22)mm、跗蹠45.7(45～47)mmで、全身絨毛に被われており、上嘴および下嘴周辺部は黒色、下嘴の中央部は蠟光沢を帯びた黄

色。上嘴の甲は橙色、虹彩は黒褐色、上体は額から尾まで、および翼、体側も黒色で、羽毛の先端がオリーブ褐色を帯びている。両翼の後縁、腰、下背両側に白色の斑点があり、眼先、眼周、頬、腮、喉と前胸部は乳黄色、眼の後に2すじの黒色帯状斑がある。腹部は白色だが淡黄色に染まっているものもある。跗蹠正面および趾は蠟光沢を帯びた黄色、背面および蹠は黒色である。

4羽の雛の剖検による胃内容は藻類と水生昆虫であった。

6. 討論

1. 梵浄山地区のオシドリは終年滞在している。我々は貴州省のその他多くの地方、たとえば貴陽市の水田で、貴定県の剪刀河、龍里県の洗馬河などで夏季におけるオシドリの繁殖を観察してきた。これにより、貴州省のオシドリの全部が留鳥なのか、あるいは一部が留鳥となっているのか、さらに調査研究を進め結論を得る必要がある。

2. 関係資料(呉至康, 1983)の記載によると梵浄山のオシドリは“溪流沿いの岸壁の岩棚に営巣……全部苔藓で構成され凹み穴状である”と、また卵は“46×35mm, 淡黄白色”と記録されているが、我々が観察した状況と一致しない。前述のように、梵浄山地区のオシドリは、全部天然の樹洞に営巣しており、巢内も巢材らしいものはほとんど無かった。この文の作者はオシドリが繁殖前のねぐらを営巣しているものと誤ったのであろう。また我々の観察によるとオシドリの卵は白色であり、計測も誤りの記述である。

訳注

- *1 馬尾松 (*Pinus massoniana*) は、淮河、漢水流域以南の南西。貴州省、四川省、雲南省からベトナム北部に分布するマツ科の樹木。
- *2 湖北楓楊 (*Pterocarya hupehensis*) 湖北省、四川省西部、陝西省南部、貴州省北部に分布するクルミ科の樹木。
- *3 絲栗栲 (*Castanopsis platyacantha*) 四川省、貴州省中部以西と雲南省東南部に分布するブナ科、シイ属の樹木。
- *4 山磯 (*Symplocos caudata*) 長江以南の各省、インドにも分布するハイノキ科の樹木。